

2023年3月期 連結決算概要

キオクシアホールディングス株式会社

2023年5月12日

注意事項

将来に関する記述は、当社が現時点で把握可能な情報から判断した想定および所信に基づくものであり、多様なリスクや不確実性（経済動向、市場需要、半導体業界における激しい競争等がありますが、これらに限られません。）により、実際の結果とは異なる可能性があるのでご承知おきください。また、当社は本資料上の将来予想に関する記述について更新する義務を負うものではありません。

本資料に記載されるメモリ市場の見通し等に関する情報は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成しているものであり、当社がその真実性、正確性、合理性及び網羅性について保証するものではありません。

なお、本資料は、当社の2023年3月期連結決算概要の提供のために作成されたものであり、国内外を問わず、当社の発行する株式その他の有価証券への勧誘を構成するものではありません。

本文に掲載の製品名やサービス名は、それぞれ各社が登録商標または商標として使用している場合があります。

業績概要¹

[億円]	23年3月期			22年3月期		
	3Q	4Q	対前四半期	23年3月期	対前年度	
売上収益	2,782	2,452	▲330	15,265	▲2,444	
営業利益	▲933	▲1,714	▲781	2,162	▲3,152	
マージン	▲34%	▲70%	▲36pt	14%	▲22pt	
当期純利益	▲846	▲1,309	▲463	1,059	▲2,440	
マージン	▲30%	▲53%	▲23pt	7%	▲18pt	

補足情報

減価償却費及び償却費 ²	1,063	1,069	+6	4,454	▲272
不純物を含む部材を起因とする操業影響額 ^{3, 5}	-	-	-	▲332	+332
PPA影響額等 ^{4, 5}	▲57	▲56	+1	▲970	+654
法人所得税費用	▲231	▲539	▲308	485	▲968

1. 連結・IFRSベース
2. 営業利益に減価償却費及び償却費を加算したものが、当社グループのキャッシュベースの収益性を示す指標であるEBITDAとなります。当第4四半期におけるEBITDAは、営業利益▲1,714億円に減価償却費及び償却費1,069億円を加算した▲645億円となりました。当連結会計年度におけるEBITDAは、営業利益▲990億円に減価償却費及び償却費4,182億円を加算した3,192億円となりました。
3. 2022年1月下旬に発生した3次元フラッシュメモリ「BiCS FLASH™」の特定の生産工程における不純物を含む部材を起因とする四日市工場と北上工場での操業影響による仕損品に関わるコスト、未稼働期間の製造固定費を含む営業利益への影響額です。
4. 過去の企業結合に伴い発生したPPAによる営業利益への影響額及び2019年6月に四日市工場で発生した

5. 停電影響額です。営業利益から不純物を含む部材を起因とする操業影響額及びPPA影響額等（以下「Non-GAAP調整額」）を除外したものが、当社グループの恒常的な経営成績を示すNon-GAAP営業利益となります。当第4四半期におけるNon-GAAP営業利益は、営業利益▲1,714億円からNon-GAAP調整額▲56億円を除外した▲1,658億円となりました。同様に、Non-GAAP当期純利益は、当期純利益▲1,309億円からNon-GAAP調整額▲56億円を除外した金額から税金調整額を差し引いて▲1,272億円となりました。当連結会計年度におけるNon-GAAP営業利益は、営業利益▲990億円からNon-GAAP影響額▲316億円を除外した▲674億円となりました。同様に、Non-GAAP当期純利益は、当期純利益▲1,381億円からNon-GAAP調整額▲316億円を除外した金額から税金調整額を差し引いて▲1,065億円となりました。

ハイライト (1/3)

2023年3月期通期業績

- 年度後半からフラッシュメモリ需要が全般的に弱含む中、経済の先行き不透明感の高まりもあって顧客が在庫調整を進めた結果、出荷量は前期比で減少。需給バランスの悪化を受けて、販売単価の下落が進行した結果、前期比で大幅な減収減益となった

足元の実績及び動向

	23年3月期 3Q	23年3月期 4Q
出荷量 ¹ (QoQ)	10%台半ばの 減少	10%台前半の 増加
販売単価 ¹ (¥, QoQ)	20%台前半の 下落	20%台後半の 下落

- 第4四半期連結会計期間は、フラッシュメモリ需要が弱含む中で、顧客の在庫調整が継続。出荷量は増加したものの、販売単価が引き続き大幅に下落し、前四半期比で減収となった
- 販売単価下落とこれによる棚卸資産評価減の影響に加えて、生産調整の影響とIFRSに基づく固定資産税の一括計上の影響もあり、前四半期比で営業損失は拡大
- 期中平均為替レートが円高方向へ推移し、ドルベースでの販売単価は20%台前半の下落となった

1. 記憶容量ベース

ハイライト (2/3)

製品開発・技術開発

- 第8世代となる218層のBiCS FLASH™を発表、高度なスケーリング技術とウェーハボンディング技術を採用

ハイライト (3/3)

市場動向及び見通し

- 経済の先行き不透明感から、フラッシュメモリの需要は依然として低迷しているが、顧客の在庫消化進展と、フラッシュメモリメーカー各社による生産調整により、需給バランスは今年後半にかけて徐々に改善へ向かうと見込まれている
- PC及びスマートフォン向け需要は、顧客の在庫水準正常化に加え、メモリ搭載量の増加と、中国経済の活性化や新製品発売による販売台数の増加により、今年後半の回復が見込まれている
- データセンター・エンタープライズSSDの需要は、企業のIT投資抑制によって減速が継続しており、先行きについて注視している
- 短期的には厳しい市況が続くが、フラッシュメモリ市場の中長期的な成長トレンドについての市場の見方に大きな変化はみられていない
- 需要動向に合わせた生産調整と販管費抑制によって現在の市況悪化局面を乗り切るとともに、次世代製品開発や製造コスト低減等の競争力維持のための取り組みを継続する

KIOXIA